

シグマ研究委員会崩壊熱評価W. G. サブグループ会合議事録

日 時 昭和53年3月2日 13:00~17:30
場 所 原研東海研核データセンター
出席者 村田 徹 (NAIG), 松本純一郎 (原研), 中嶋龍三 (法大),
オブザーバー 山本 徹 (東北大-原研)

議 事

(1) 重要核種について

D-CHAINによる ^{235}U の熱中性子瞬時照射の場合 output によると、 $A = 86 \sim 104$ および $A = 131 \sim 144$ の中の2乃至3核種だけで、全エネルギーの80%を cover できることがわかった。80%を90%にするかどうかで議論したが、 ^{239}Pu の場合のことなど考えた結果、前の通り80%が妥当であるということになった。

(2) データ収集について

収集 format を前回の議論にもとづいて決定した。これから直ちに計算機に入れるため、単位の問題について議論した結果、

- 半減期はs, m, h, d, y で表示し、変換は計算機の中で行なう。
- エネルギー単位はすべてkeVとする。
- 誤差の表示は、最後の桁に合わせる。

(3) 感度解析のプログラム作成について

山本氏のプログラムを精密化するために、配布資料にもとづいて議論した。

(4) FFPグループの作業のまとめについて

100核種のレベル・スキームのまとめ方について議論したが、とりあえず既存の形式でまとめ、それにレベル密度パラメータを計算した表を付加することにした。詳細は村田氏がさらに検討することになった。